

# まなびと



## もくじ

人口減少社会に求められる教育.....	2
「社会参画に向けた力」を育成する教材のあり方 .....	6
平成27年度版『小学社会』の特色&活用法 .....	12
<b>実践紹介</b>	
4年社会科「わたしたちの県」を観光単元に組み替える提案授業.....	14

# 人口減少社会に求められる教育

信州大学教授 <sup>ふせぎ ひさし</sup> 伏木 久始

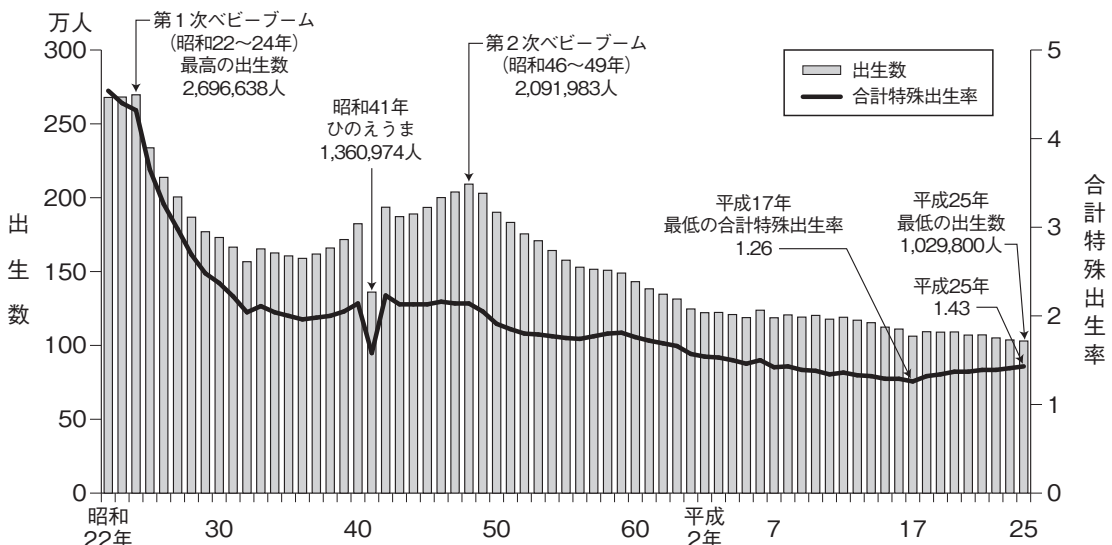
## 1 人口減少の状況

30年ほど前の人口問題と言えば、「発展途上国を中心とする世界の人口爆発に伴うエネルギー消費が環境汚染と地下資源の枯渇をもたらす」というシナリオにもとづいていた。しかし、今日の人口問題とは、「先進国を中心に減少し続ける人口と少子高齢化が既存の社会システムを維持できなくなる」という問題へとシフトしている。

わが国の年間出生数は、第1次ベビーブーム(昭和22~24年)には約270万人、その世代が親になる約25年後の第2次ベビーブームには約200万人であったが、第3次ベビーブームは発生せず、その後は減少を続け、平成25年の出生数は100万人余りとなった。「少子化」を人口学的に定義すると、出生率が持続的に人口の置換水準を下回っている状態だとされるが(大淵, 2004),

人口の置換水準とは人口を保つのに必要な出生率を意味し、死亡率ないし平均寿命との関係で決定する。国立社会保障・人口問題研究所の計算にもとづくと、現在の置換水準は2.07であり、夫婦が平均2.07人の子どもをもつと人口が維持されることになるが、平成24年段階の出生率は1.41であるから、少子化は加速することになる。

わが国では昭和49年からすでに少子化の現象が見られ、タイムラグを経て平成17年には総人口の減少が始まっている。これは少産多死型になったということであり、第2次ベビーブーム世代が平均寿命の80歳代になるまでの2050年代までは、わが国の人口減少は避けられないということになる。1900年の人口が4,385万人だったわが国は、2000年までの1世紀間に人口を3倍(12,669万人)に急増させたが、2100年までの1世紀間に3分の1(4,771万人)に急減する人口



▲図1 出生数及び合計特殊出生率の年次推移(厚生労働省「人口動態統計」平成25年より)

減少社会を経験することになると予想されている。

## 2 人口減少の要因

女性の社会進出にともなって出生率が低下することは先進国共通の現象であるが、わが国の場合、未婚率が1970年代以降男女ともに上昇していることが事態をいっそう悪化させている。これは非婚ないし晩婚化の進行を意味するが、その背景には、若者の就労条件や子育て支援の遅れなどが原因になっていると言える。

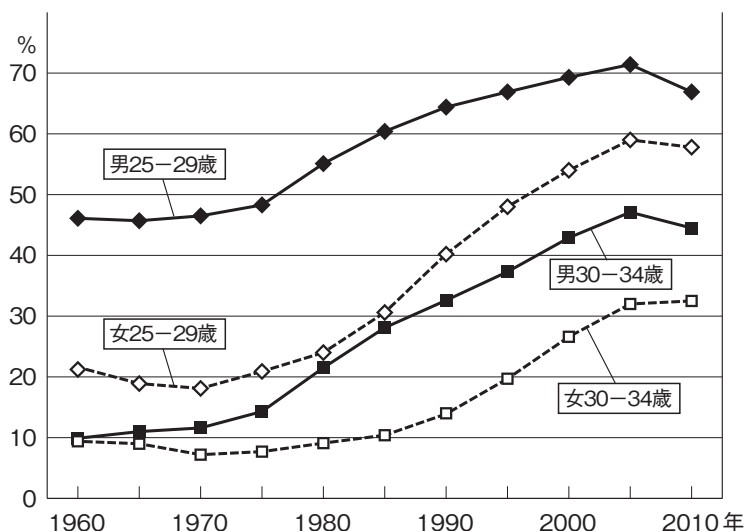
こうした課題に対して、例えば北欧のデンマークでは、1970年代に女性の社会進出が進んだが、育児と仕事の両立を支援する社会制度を整え、90年代からは育児休業と労働時間の短縮を実現して出生率を回復させている。わが国も安心して結婚・出産・育児に取り組める社会環境の整備が待たれている。

## 3 人口減少に伴う社会の変化

人口減少問題は、少子高齢化と連動しているが、特に子どもの数の減少傾向は深刻な状況にある。

この30年間で子どもの数は3分の2に減少しているが、専門機関の人口予測によれば、今後30年間でさらに子どもの数は現在の3分の2に落ち込むと予想されている。これを高齢化の数値と重ねると、現在の小学生が働き盛りの年齢に到達する2040年頃には日本の高齢化率は36%を超え、15歳以上の働き手1.5人で1人の高齢者を支えるという高齢社会になる。現政権下では、史上最大規模の一般会計予算が生まれ、“アベノミクス”と称する経済対策が実施されているが、わが国の膨大な累積債務は、人口がさらに減り続ける将来世代に重くのしかかることになる。

このような社会全体の人口減少に加えて、わが国では総人口の半数以上が三大都市圏に集中し、それ以外の地域は中山間地を中心に深刻な過疎化に悩むという地域間格差の問題も大きな課題となっている。人口減少のスピードも地域によるタイムラグがあり、まず地方の過疎地域において顕著となり、次いで人口5万人以下の市町村、その次に地方の中核都市エリアに拡張し、最後に東京都区部に押し寄せると予測されている。これを年少人口（～14歳）、生産年齢人口（15～64歳）、高齢人口（65歳～）に分けて将来人口動向を表



▲図2 年齢別未婚率の推移（総務省統計局「国勢調査報告」より）

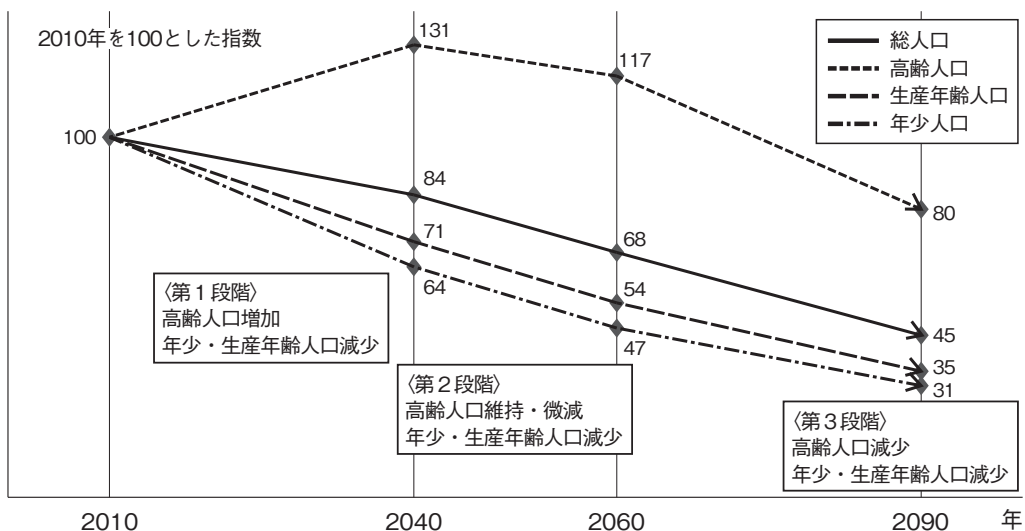
したものが図3である。すでに年少人口と生産年齢人口は減少の一途を辿っているが、高齢人口も2040年までは増加が予測されているものの（第1段階）、その後20年間は高齢人口が維持・微減となり（第2段階）、2060年以降は高齢人口さえも減少する時期（第3段階）を迎えることになる。

## 4 人口減少が学校教育にもたらす影響

少子化はまず赤ちゃんの減少を意味するから、産科医や小児科医の減少に拍車をかけ、子どもの年齢の進行に応じて保育所や幼稚園の経営を困難にし、乳幼児を対象とする業界が打撃を受ける。やがて小学校・中学校・高等学校の在学者数の減少に応じて学校統廃合や教育関連産業の淘汰が進み、地域や学校の行事等が圧縮されるとともに、子どもたちのコミュニティの消失が遊びの孤独化をもたらす。少子化世代が就職の時期を迎えると、労働力不足が問題となり、外国人労働力の需要が外国籍の子どもの就学を拡張させることになる。一般的には、人口減少は国内市場の購買力低下・地域経済の低迷をもたらすため、グローバル戦略を立てて海外進出しない限り、企業の収益は

落ち込み、税収が下がる分だけ自治体の社会福祉や社会サービスが低下することになる。これは教育予算の縮減を余儀なくされ、学校教育のインフラや教職員の人件費の削減という結果をもたらす。したがって、費用対効果を追求する中で学校統廃合が検討にのぼることは避けられない状況になり、学区域に根付いていた様々な活動やコミュニティの人間関係が崩壊していく。廃校となった学校周辺の地域は活力を失い、過疎化と少子化が加速するというのが、地方に共通する今日の問題となっている。

その一方で、例えば小規模町村が多い長野県では、77市町村のうち、小・中学校が1校ずつしか設置されていない自治体は24町村あり、地理的な条件から統廃合が不可能な地域の学校もあるから、将来人口予測からすれば、学校の小規模化や少人数学級ないし複式学級という状況が増えていくことになる。こうした状況はすでに全国各地の僻地に進行しており、教員配置の制約から中学校の教科指導の専門性を担保する目的で小中一貫教育を導入し、中学校の教科の免許を持つ教員が小学校の授業にも専科の教員として学習指導する体制をとったり、地域との連携やPTA活動を小中



▲図3 日本の将来人口動向（国立社会保障・人口問題研究所推計：平成25年）

合同で取り組んだりする学校が増えている。さらに、ICT（情報コミュニケーション技術）やSNS（ソーシャルネットワークサービス）の普及状況を活用して、物理的条件のハンディキャップを先端技術の導入により補い、質的に高い教育を実現しようとする取り組みが施行されている。具体的には、電子黒板をテレビ会議のツールに活用し、他校の子どもたちと協同授業を実施したり、タブレットPC等を活用して双方向型の授業を深めたりする授業が、アクティブ・ラーニングというかけ声とともに広がっている。デジタル教科書も今後は進化し、個人で追究する学習スタイルにも対応できる要素が増えてくるだろう。これからの授業イメージは、一人の教師が教科書内容を黒板とチョークを使って理解させていくというものではなくなくなっていくにちがいない。教材研究や学習指導案の作り方自体が刷新されるのかも知れない。

## 5 求められる学校教育の方向性

こうした人口減少社会に対応した動きの中にあっても、まだまだ地域社会の行事や学校行事は「伝統」を守るという大義により旧来の慣習をなぞることが多い。そして、教室で学び合う子どもの数が激減しているにもかかわらず、長年馴染んできた伝達型の一斉授業のやり方を変えようとしない教職員集団も少なくない。しかし、これからの社会を生きていく子どもたちに、教師たちが自分の子ども時代に学んだ内容や教えられた方法を踏襲することには限界が来ている。

筆者は、これまでノルウェーの北極圏内の小規模校やニュージーランド南島クック山の中腹にある国内最小の小学校、フィンランド山間僻地の小規模校などをリサーチしてきたが、「子どもは教え込んだら学べない」、「ティーチングからラーニングへ」というスローガンのもとに、子どもの主体的・自律的な学習を丁寧にサポートされている先生方の姿に学ぶことが多かった。また、オランダのイエナプラン校やモンテッソーリ校、ス

ウェーデンのヴィットラ校では、在籍児童が少なすぎるからではなく、敢えて複式学級を採用して学習集団を形成している教育実践に学んだ（伏木、2010）。社会性の教育を第一に考えたときに、それらの学校は3学年混合クラスを取り入れた基幹集団をつくり、教科や学習内容に応じて柔軟な学習集団をアレンジしているのだ。そうした学校では当然ながら教職員の同僚性が強く求められるけれど、結果として子どもたちの学力は相対的に高い数値を示している。わが国では複式学級は“解消”することがベターだと考えられているが、発想を変えてみることも必要なのかも知れない。少人数だからできないと嘆くのではなく、少人数だからできることを積極的に開発していく姿勢が、人口減少社会の教育に求められている方向性であろう。

また、人口集中の歪みを解消するためにも、学年が上がるにつれて生まれ育った地域の課題を学習する機会を失い、全国標準の「学力」向上に焦点化してしまう学校教育の現状にもメスが入れる必要があるだろう。学校を拠点とする地域の課題を主体的に問題解決しようとする子ども、地域の「もの・ひと・こと」に向き合って問題解決するプロセスの中で市民性を育てていく子どもを育てる教育のあり方が具体的に検討される必要がある。そうした教育の中核に位置付くべき教科がまさに社会科である。そのためには、教科書で学ばせたいことと教科書で学べることの限界を整理し、未来を担う子どもたちにとって、いま学校で学ぶ価値のあるものは何かを、学校関係者のみならず多様な人々との議論をふまえて再構築していくことが求められよう。

### 【参考文献】

- ・大淵寛・高橋重郷（2004）：『少子化の人口学』（人口学ライブラリー1）、原書房
- ・国立社会保障・人口問題研究所推計（平成25年）
- ・伏木久始（2010）：「複式学級の教育効果を生かした教育実践の可能性―スウェーデンのヴィットラスクールの「個に応じた教育」を事例として―、個性化教育研究、第2号、pp.14-23

# 「社会参画に向けた力」を育成する教材のあり方

—小学校6年生社会科政治単元の〈政治参加〉学習の課題—

岩手大学准教授 つちや なおと  
土屋 直人

## 「社会参画の力」とはどういう〈力〉か

近年、社会「参画」力の育成をめぐる議論が盛んになされている。次期学習指導要領の改訂においても、いわゆる選挙権年齢の引き下げも視野に入れ、「社会参画に向けた力の育成」が能力・資質に関わる目標としてより一層重視される見通しである。

2006年改正の教育基本法は、第二条（教育の目標）に「公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと」の文言を新たに盛り込んだ。2008年に改訂された小・中学校の学習指導要領解説社会編の中にも「(社会)参画」の文言が散見される。文科省によるその「解説」（小学校）では、公民的資質は「持続可能な社会の実現を目指すなど、よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎をも含むものであると考えられる」とESDの観点から論及している。もとより公民的資質とは「平和で民主的な国家・社会の形成者」として「必要とされる資質」であり、それが「よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎をも含むものである」とすれば、社会参画の力を育てるとは、広く社会「形成」への参画主体、いわば〈民主主義社会の作り手=ビルダー〉、あるいは〈民主政治の担い手=主権者〉としての力を育てることと捉えられる。その意味では、戦後社会科は、その発足当初から社会参画、政治参加への力を育てることを中核目標として（原理的に）大切にしてきているものであり、その教育実践史の蓄積から学び得るものは大きい。

本稿では以下、小学校6年生の政治単元の学習に焦点を当て、「社会参画」を〈政治参加〉という角度からとらえ、〈政治参加の主体としての力〉〈国民主権を担う主権者としての力〉を育てる授業づくりについて、一つの授業実践を検討しながら考察してみたい。

## 2 教科書の内容構成： 地方自治と「国民主権」

まず、小学校検定教科書の記述内容から、小学校6年生の政治単元の内容構成の典型を確かめてみたい。2015（平成27）年度から使用される予定の、教育出版『小学社会6下』は、大単元「暮らしの中の政治」に、2つの小単元「わたしたちの暮らしを支える政治」「憲法とわたしたちの暮らし」を置いている。

小単元1の「わたしたちの暮らしを支える政治」に着目すると、まず「まちで暮らす人々の願い」を具体的に記載し、人々は「どんな願いをもっているのだろう」と問いかけ、「人々の願いをかなえ、社会の問題を解決するために、政治はどのような働きをしているのだろう」と学習問題を設定している。次に、東京都世田谷区の例を挙げながら「子育てをしている人々を支えるために、どのような取り組みが行われているのだろう」と問いかけ、その取り組みの一つである「おでかけひろば」（施設）に着目し、「『おでかけひろば』ができるまで」を住民、区役所、区議会等の関係図や、区の予算の資料を示して説明しながら、「住民の願いは、どのようにして実現したのだろう」と問いかけている。

こうして、小単元1では、冒頭で「おでかけひろば」を取り上げ、児童が日常的に目にし、日頃利用している（場合が多い）公共施設を教材例にし、その施設は誰が何のために、どのように作ったのか（政治過程）を問い、公共施設を通して〈暮らしと政治〉の関係、「暮らしの中の政治」を捉えさせようとしている。そして公共施設の設置・利用を求める住民の「願い」を実現した過程を、さまざまな立場に即して学習することを通して、いわば〈住民の政治参加〉を、実例の理解を通して捉える構造となっている。それらは、小単元2の「国民主権」（参政権）理解へとつながる基礎となる展開が想定される。

### 3 「公園をつくらせたせっちゃんのおばさんたち」の実践

上記単元での学びの具体像（あるいは、あるべき一つの姿）に迫るべく、ここで一つの実際の授業実践、若狭蔵之助の「公園をつくらせたせっちゃんのおばさんたち」を取り上げて検討してみたい。これは、1969年に東京都板橋区下赤塚小学校で行われた6年生の政治（地方自治）学習で、「国民主権」を学び取らせることを目標とした実践である。

実践の具体的な展開を追ってみよう。まず、子どもたちに、日頃「下赤塚児童公園」をどのように利用しているのか、その状況を聞いてみた。すると、以前には近くに公園がなかったために、子どもたちが新しくできた公園をとても喜んでいて。そしてこの公園がいかに役立っているかを話し合っているうちに、それではこのような公園をいったい誰がつくったのか、「公園ができるまで」を調べてみようということになった。次に、調査にあたって目的をはっきりさせるために調査項目を決める話し合いが行われ、それは次の6つにまとめられた。「①どういうことがきっかけで、下赤塚児童公園を作ろうということになったか。②一番はじめ作ろうと言った人はだれか。③いつごろ作られたのか。④なぜあの場所に作られたか。

⑤どのくらい費用がかかったか。⑥それは個人が出したのか、税金で作ったのか。」

子どもたちは3つの班に分かれ、それぞれグループごとに質問紙を用意し、放課後、調査に出かけていった。A班では最初、公園のまわりの家ならどのようにして作られたのかを知っているだろうと考え、聞き取りを始めたが要領を得ない。そこで、みんなのお世話をしてくれる交番ならばと思って聞いてみたが全くだめ。最後によりやく「わたしは公園設置のための署名をした」というOさんに会った。こうして力を得た子どもたちは、区役所で作ってくれたと聞いて、次の日は電車に乗って区役所まで出かけていった。こうした調査を経てわかったことが学級新聞にまとめられた。この調査の間、若狭自身はほとんど指示をしていない。子どもたち自身で思い当たるところを次々と尋ね歩いていった。

子どもたちはグループ毎にレポートを作って報告会を行った。質問を出し合いながら、それぞれ出された調査事項を質問紙の項目に沿ってまとめていくと、一つの大きな問題に突き当たった。それは、「どうして出来上がるまでに五年間もかかったのか」ということである。自分たちがとても必要だと思うことに対してあまりにも時間がかかりすぎるのではないかという疑問である。そして、「みんなが作ってほしいと頼んでいたのにどうしてこんなに長くかかるのか」ということが問題になった。これに対して「『土地を見つけるのが大変だった』と区役所の人が言っていたから、土地を見つけるのに時間がかかったのではないか」などの意見が出された。こうして話が行き詰ってしまったとき、「『誰が請願をしたのか』がはっきりしたら、その人に聞けば本当のことがわかるだろう」ということになり、「本当に中心になった人は誰か」ということに話は入っていった。ところが「だれが作ってほしいと言ったのか」について、A班の子どもたちは「PTAの人や町会の人など」、B班は、「まとめた人は町会長さん」、C班は「いや地元の要望が区会議員の牛山さんを通

じて出され牛山さんも自分がやったというのだから牛山さん」と、意見が分かれてしまった。それぞれ自分たちの聞き取りが正しいと思い込んでいる。それもそのはずで、町会長に聞けば自分が中心になったと言うし、議員に聞けば自分こそが世話をしたと言うからである。どれも決め手となる根拠を示すことができなかったが、「お母さん方が請願したらしい」ということまではわかった。それではそのお母さんというのは誰なのか。一番初めに言い出した人、請願運動の中心になった人さえわかれば、公園づくりに本当に五年間もかかったのかがわかるし、こういう大事な事業の中心になってくれた人は誰なのかわかる。子どもたちの関心は「一体誰が最初に言い出したのか」ということに向けられていった。

次の日、若狭は「もったいつけながら、子どもたちに『いいもの』をとり出して見せた。」それは一枚のハガキであった。「柴崎恵美子殿 請願の審査結果について」、児童公園設置に関する請願の「採決の上執行機関に送付するものと決定」と記されたハガキである。子どもたちは、その柴崎さんが隣の組の節ちゃんのお母さんだということを知り、「驚いたような、ホッとしたような声をあげた。」若狭はそこで、用意していたプリントを渡し、解説を加えながら子どもたちと一緒に読んでいった。そのプリントは、「どうして五年間もかかったのか」を語る、節ちゃんのお母さんのノート「下赤塚地区に児童公園をつくる会の記録」を簡略化したものであった。

さらに若狭は、運動の中でお母さんたちは何を考え、どのようにして様々な障害を乗り越えていったのか、もっと具体的な主権者像に突き当たらせようとした。そのため若狭は、節ちゃんのお母さんに実際に教室に来て、話をしてもらうことにした。「はじめに署名してもらいに歩いたとき、みんな喜んで、快く署名してくれたが、一緒に署名とりに歩いてくれる人は少なかった。」「空地を探すように言われたときは、小さい子の手をひいたりおんぶしたりして地図と赤えんぴつをもって

あちこち探し歩いたが大変だった。」「役所の人たちから『また来た』『うるさい』というようなことを陰で言われたり、都の公園部長に『公園を作ってもあまり利用者がいない』とか『自分が子どもの頃は公園などなくても楽しく遊んでいた』とか『公園を作っても保護者がついてくるように』などといやがらせをいわれた。私たちは当然のことを要求しているのに、ちっとも都民の立場に立ってくれないので腹立たしいと思った。」「用地買収のことで区議員にお願いしたとき、ほかの党の人にたのまない方がよいとか、町会を通して運動した方がよいとか言う。本当に子どもたちのことを考えているのかと思ったこともある。また、区では、用地の交渉が成立しないと地主が理解がないという。用地買収の値段を上げて買いやすくしようとはしない。そんなとき誠意がないと思った。」「しかし、そんな苦労の中でも私たちの運動がきっかけとなって空地利用の遊び場づくりが区の手で進められるなどうれしいこともあった。」

こうしたお母さんの話には、子どもたちは「うなずきながらききい」り、感心したり、「ともに怒りともに喜んでいた。」「そこには『子どもたちのすこやかな成長』をねがう母親のすがたと、地域にどう民主主義を根付かせていくかを考え、それを前進させている政治主体としての母親の具体的なすがたがあった。」

ある児童はこういう感想を書いていた。「お母さんたちは何度も区議員のところへ頼みに行ったり、署名運動をしたり、区役所へ交渉に行ったりしてやっと作ってもらった。あの公園はお母さんたちの努力のたまものだと思う。『公園がほしいな』と思うだけで、請願もしないでいたのでは、絶対公園なんかできない、と先生は言っていたが、その通りである。調べてよかったと思う。」

若狭はこう述べる。「子どもたちは、はじめ政治は議員がやるものと考え、議員や役所をたずねあるいた。しかし、この学習が終わる段階ではとうとう『節ちゃんのお母さんや三千人の署名』に



までおりてきたのである。この学習を通して子どもたちは政治主体をもっと身近な地域住民の中に見出すことができたのである。」

## 4 若狭実践の特質と意義、教材化の視座

若狭は、「国民主権」の概念を具体的に捉えさせるための不可欠の課題としたこととして、①子どもたち自身に一定の政治過程を調査させること、②その中で具体的な一人の政治主体につき当たらせ、その人間像にせまらせること、の2点を挙げている。こうした「ねらい」に立って、若狭は学習の具体的な素材（教材）を選ぶ視点を、次の3点に置いていた。「①子どもたちの生活実感から出発し、彼らの生活要求に関係の深いもの、②政治過程を子どもたちが具体的にとらえやすいように、住民の要求から実現までが時間的に短いもの、③政治主体が具体的にとらえやすいもの」。こうして選択された素材が、地域に児童公園を設置することを要求し、かつそれを実現させていったお母さんたちの運動であった。この実現の筋道を子どもたちに辿らせていくことによって、先の「ねらい」に迫ろうとした。

子どもたちは、「公園がつくられるまで」の経緯を丹念に追いかけて、その事実を知るなかで政治の具体的なメカニズムを知り、政治への参加（参画）と批判のしかたを学び取っている。また、子どもたち自身による調査活動そのものが、ある意味での子どもの「社会参加」にもなり得ていた。子どもたちは、「主権者としてのお母さん」に突き当たることを通して、身近なところに政治主体がいるということ、地域住民一人ひとりが政治参加の主体である（になり得る）ことを捉えるに至っている。「国民主権」の実質の意味を実感的に掴み理解し、自らも主権者としての自覚を持ち、やがて将来、主権者として行動する（政治参加すること（方途と可能性）をイメージすることの基礎を培っている。

子どもや若者の「主権者としての自覚」や実感

が社会構造的に持ちづらくさせられている今日、小学校における政治学習として、憲法に基づく政治の実現を求める政治主体＝主権者を育てるという視点は大切である。そのためには、子どもが自ら問いを立て追究する学びの主人公になり、国民主権を学び、自らの将来の主権者像をイメージする糸口を示す、政治参加の力を育てる社会科授業が求められる。上記の若狭の実践は、やがて将来自分が参加（参画）する社会の形成者＝主権者像を、出会った身近な主権者に重ねてゆくことを実現しようとした実践であり、その意味で、「社会参画に向けた力」を育てる実践の一つの典型であったともいえる。

また、この単元の追究過程で核となった教材は、公園そのものや地域の人々のみならず、「一枚の黄ばんだハガキ」と「ノート」である。また、若狭は「せっちゃんのおばさん」をも生きた身近な教材とした。これらは、若狭が事前に自ら地域を歩いて探し、探りあてたものであり、それがあったからこそ単元の展開を見通し、子どもたちの追究を支えることをなし得ていた。これら教材が子どもたちの政治認識の深まりを生んだという意味で、素材に内在する教育的価値（力）を若狭が見出し、引き出した営み、〈地域に政治を探り見出す教材研究〉が要にあったと言える。

## 5 「社会参画の力」と社会科教育の課題

若狭は、「実生活を見つめ、そこから具体的な要求をかがげて行動をおこし、そしてそれを解決していく」政治主体、「地域住民が要求をかがげ、統一して闘っていく、そうした政治主体の具体像を通して国民主権ということをとらえさせたいと考えた」と述べている。いわば、この若狭の「国民主権」概念は直接民主主義のイメージと結びついており、「人民主権」へと繋がっていた。人民主権における「人民」とは、主権をみずから行使し得る直接的な政治主体を意味し、ここでは「人民」一人ひとりが政治に直接参加し、政治の現状

をみずから改革し得る当然の権利をもつものとなされていた。

「参画のはしご」の提起で知られるロジャー・ハートは、著書『子どもの参画』の中で、子どもの参画と「民主的な社会づくり」の関連を指摘し、同書の冒頭でこう述べている。「本稿で使用する『参画』という言葉は、人間の生命や人間が暮らすコミュニティの生活に影響を与える意思決定を共有するプロセス全般を指すものである。こうした意思決定は、民主主義を構築するための手段であり、また民主主義を測る尺度でもある。『参画』は市民の基本的な権利と言えよう。」あえて言えば、「社会参画」とは、政治（公的問題に関する政治的意思決定）に主体的に関与してゆくことであり、それは民主社会に生きる「市民」の行動・態度であり権利である。

上記の若狭実践は、「せっちゃんのおばさん」の政治主体としての行動、公園づくりの経緯という、「人間の生命や人間が暮らすコミュニティの生活に影響を与える意思決定を共有するプロセス全般」を、子どもが自己の暮らしの中にある身近な教材を通して、じかに学ぶ営み（自ら問いかけ調べ、追究し学ぶ「問題解決学習」）を実現したものであり、その意味で社会参画に向けての力を培う、〈政治参加〉への学習の基礎をなすものであった。若狭実践は、民主社会の主権者、国民主権を担う市民としての能力を育てる実践、「民主的な社会づくり」を学ぶことを組織し励ました実践であり、政治的判断力と行動力を、政治を批判的に捉えあたらしい政治・社会を切り拓いてゆく主体としての自覚と態度をトータルに育てる基礎となる〈試み〉であったと言えるのではないか。

## 6 政治単元「暮らしの中の政治」における教材化の課題

小学校社会科の政治学習は、憲法の条文や制度、政治の仕組みや働きなど、〈言葉だけの上滑りの学習〉になりがちであり、抽象的な理解と無味乾燥な暗記を強いる結果となる危険性がある。子ども

にとっても、「政治」というものを（実際にそれが生活の中にあり、事実身近なものであるにせよ）身近に見出し、捉えることは難しい一面があるだろう。だからこそ若狭のように、こうした問題を克服するために、一人の具体的な政治主体を学習の対象・教材に据え、国民主権の担い手の生き生きとしたイメージを伝えようとする試みは尊い。

また、教師としては、政治的な話題や論争的な問題を取り扱う場面に及び、「政治的中立」を意識した自己規制を念頭に、授業で政治的な話題に触れることを避け、現実の生々しい政治問題を教材として取り上げ追究する授業づくりを避けがちな傾向があろう。加えて、「社会参画に向けた力」の育成をめぐる議論では「直接的な参画を促すものではない」という考え方が有力視され、その政治行動（への認識）との事実上の接続性・連続性を等閑視・危険視する向きもあろう。

しかし、地域の生々しい現実政治（政治問題）や課題、地域住民の要求と政治の実際（市民の要求と齟齬のある政治）を教材として授業で取り上げ、その現実と課題に目を向けさせることは、避けなくなる困難なことであるが、大切なことである。例えば、議会や行政がそこで市民の要求をどう吸い上げているか（あるいはないか）。「国民生活の安定と向上を図るために政治が大切な働きをしている」（小学校学習指導要領解説社会編）という面の一方で、必ずしもその「大切な働きをして」いない（と言わざるを得ない）実態もある。

ちなみに、教育出版の小学校社会科教科書6年下では、過去に、岩手県沢内村、故・深沢晨雄元村長の、豪雪・貧困・多病の克服を目指す住民参加の地域政治、乳幼児死亡率低下等への保健行政や老人医療費無償化等の独自の「生命行政」を、地方自治・憲法（生存権）の学習材として位置づけていた。教材化において、地域の現実から政治を見据え捉える眼、地域の事実（モノ・ヒト・コト）に教材を求める営みは、時は変われど大切である。

3・11東日本大震災の後、いまでも続く、東北の

(特に沿岸被災地の)「復興」不全の実態とその戦後政治史的背景を考えたとき、震災後の社会科教育実践にあらためて問われているのは、住民自治を担う地域の政治参加主体を育てること、地域づくりを自らの公共的課題として引き受ける主体的能動的市民(住民)としての〈政治参加〉の力を育てることではなかろうか。地域(の復興)に生きる大人=政治主体(=教材)に子どもを「つきあたらせる」社会科授業は、子ども自身が地域住民の一人として新しい地域をつくりあげていく契機へと繋がり得る可能性を内包している。教材は地域に、生活の中に、転がっている。「暮らしの中の政治」の単元の導入で、地域を歩き、自力で教材を探し、子どもが「暮らしと政治」をつかむ手助けをする方途を探りたい。

#### 【引用・参考文献】

- ・若狭蔵之助『高学年の社会科教室』明治図書、1970年
- ・若狭蔵之助『民衆像に学ぶ—生活と教育の結合をめざす教育実践の記録—』地歴社、1973年
- ・若狭蔵之助『社会科教育叢書 問いかけ学ぶ子どもたち—観察・思考・自由な表現—』あゆみ出版、1984年
- ・斉藤利彦「地域住民運動と『国民主権』の学習—一九七〇年・若狭蔵之助『児童公園』(六年生)の授業—」(民教連社会科研究委員会編『社会科教育実践の歴史—記録と分析・小学校編—』あゆみ出版、1983年、所収)
- ・広田照幸「コドモを市民に育てるには」(『アステイオン』vol.72 (特集 なぜいま『市民力』か)), 2010年)
- ・ロジャー・ハート著、IPA日本支部訳『子どもの参画—コミュニティづくりと身近な環境ケアへの参画のための理論と実際—』萌文社、2000年
- ・Roger A.Hart, Children's Participation: From Tokenism to Citizenship. Florence: International Child Development Center, UNICEF, 1992.

# 平成27年度版『小学社会』の特色&活用法

学習院初等科 くりはら きよし  
栗原 清

## ■「生きる力」を育む教科書です

私は今年の卒業文集の“はなむけの言葉”に次のように記しました。

「みなさんは、昨日より今日、今日より明日と自分の人生に少しずつ価値を加えていき、一步一步前進しながら明るく未来を創造していきましょう。」

暮らしの中で自分の言葉や行動をよりよくなることは、子どもたちが生きていくうえで大変素晴らしい変容であり、発展のもとである問題解決的な学習をより一層充実させます。

また日々の授業では、思考力、判断力、表現力を育てる手立てを駆使しながら「活用する力」を伸ばしていくことで、問題解決的な学習を一步進めた問題構成的な学習を実現できると信じています。

教育出版『小学社会』は、これらの視点を大切にした教科書となっています。

## ■5年生の生産单元では「高付加価値型」の生産者を中心に上げて学習していきます

高付加価値のものを生産するということは、言い換えれば、「価格が高くても消費者に満足を与えるだけの価値のものをつくる」ということで

す。例えば、米の生産の場合、国内の他の産地や安い外国産米との競争に負けないように、値段が高くても買ってもらえる、質のよいおいしい米の生産に取り組んでいる生産者を取り上げています。また、育てる漁業（かんぱちの養殖）において、商品にならなかった茶の葉をむだにせず、えさに混ぜる工夫をしている生産者のことを取り上げています。こうしたえさの工夫をすることで魚の臭みがなくなり、栄養分も豊富になります。消費者の満足する、質がよく安心して食べられる魚づくりをめざしている内容です。これらの内容はまさに「高付加価値型」の生産を表しています。

「高付加価値型」の生産者を取り上げているのは、食料生産の单元だけではありません。

「日本の工業を支える中小工場」の学習で、「高い技術をほこる大田区のものづくり」や「アイデアにあふれる東大阪市のものづくり」が登場します。そこでは、小さい工場ながらも自分のもっている技術が日本の工業を支えているという生産者の自信と誇りを感じさせ、アイデアを生かした質の高い製品開発が顧客から信頼されていることを表した内容になっています。また、工業生産（ものづくり）は、暮らしに必要なものや暮らしを便



### 農家の今井さんのお話

みなさんに安心して米を買ってもらえるようにすることが大切です。そこで、生産者の名前や顔写真、農業や化学肥料の使用をおさえた米であることを知らせる表示などを米ぶくろにのせたり、産地から消費者へ直接とどける産地直送を行ったりしています。国内の他の産地や安い外国産米との競争に負けないように、値段が高くても買ってもらえる、質のよいおいしい米の生産に取り組んでいます。

▲『小学社会』5上p.70（稲作農家の話）



### 東大阪市の中小工場の上田さんのお話

わたしたちの工場では、ビニールをはりつけた弁当箱づくりを編み出しました。よごれが付きやすかったビニールの部分だけ外せるようにして、紙の箱を再利用しやすくしたのです。この製品は、全国各地の大学の食堂などで、広く使われています。

紙の箱をつくる機械は、速度を上げすぎないように動かしています。速度を上げると、短い時間で多く生産できるかわりに、不良品が出ることも多くなるからです。なによりも正確さを大事にして、お客様から信用される工場を目指しています。

▲『小学社会』5上p.150（中小工場経営者の話）

利にしてくれるものだけをつくっているわけではありません。ピアノづくりや遊園地にある乗り物づくりに代表されるように、私たちに安らぎや楽しさを与えてくれる工業も数多く存在します。子どもたちにとっては身近で魅力的かつ関心度が高いものづくりです。こうした私たちの暮らしを豊かにする工業に触れることも、子どもたちの資質を高めるうえで大切なことです。

教育出版『小学社会』ではこのように、生産単元において「高付加価値型」の生産者を積極的に取り上げています。それは、こうした生産者の努力を学習する子どもたちが、日本の産業の未来を明るく前向きに考えていこうとする意識を養うことができること意図したからです。よりよい地域・社会の創造に主体的に参画していこうとする意識や態度が涵養される工夫をした教科書になっているといえます。

### ■ 効果的な学習のふり返し

～「まとめる」はこのように活用します～

学習指導要領では、問題解決的な学習を行うことを総則でうたっています。調べ学習の多い社会科においても、「何を調べるのか」「調べてわかったことは何か」「そのことについて自分はどのように考えたのか」「自分はどのような感想をもったのか」という問題解決の過程を大切にしていける必要があります。そのためには、学習問題について自分なりの解決の見通しをもって取り組めるようにすることが重要です。

「調べてわかったことを表現する」、これは基本です。しかし、これでは「調べっぱなし」の学習になってしまいがちです。そうならないように工夫したページが新版教科書の「まとめる」です。評価テストとしても活用できますが、次のように日々の学習で活用することをお勧めします。

まず、調べてわかったことを「キーワード」でもう一度ふり返ります。「○○とは何か」を単純に説明する言葉をノートに書き出すこともよいでしょう。また、それぞれの内容を、友だちどうし説明し合うことができれば、確実に知識・理解力となっていきます。共に学び合う姿が見られるのは素晴らしいことです。

「まとめる」には様々な課題が用意されています。ある時は、学習したことを再構成し、またある時は、調べてわかったことを表にまとめ、比較したり関連づけたりします。そして、「調べたことを表現する」だけでなく「考えたことを表現する」ために、文章の書き出しなどを例示して、子どもたちが学習しやすい内容になっています。小単元の学習を整理する「まとめる」は、基礎的・基本的な知識や概念の整理・定着を図り、学習問題の追究を通してわかったことを自分の言葉で表現する力をつけられるようにしたページです。言語活動や知識の活用を重視したページともいえます。

このように、考える場面をより多く設けて、獲得した知識を結びつけたり、獲得した知識に自分の考えを加えたりして表現する活動を重視した教科書になっているといえます。

キーワードで  
ふり返る

学習したことの  
再構成

調べてわかった  
ことを表にまと  
める

自分の考えを  
文章で表現する

▲『小学社会』5上p.73（食料生産単元の「まとめる」）

# 4年社会科「わたしたちの県」を観光単元に 組み替える提案授業

—沖縄県が人気No. 1であるわけを考え合う—

玉川大学教授 寺本 潔てらもと きよし

## はじめに

「今日、5、6校時に寺本先生が観光の勉強を教えてくださいました。5校時は、観光で人気No.1の都道府県がどこかを勉強しました。その勉強で、No.1は沖縄県とわかりました。No.2は京都府、No.3は北海道とわかりました。ぼくは、予想が静岡だったので外れたけれど、自分の住んでいる沖縄県がNo.1だったのでよかったなと思いました。6校時は、観光客が喜ぶ新しい楽しみ方をカードで考える勉強をしました。ぼくは、この勉強をして、カードに絵が書いてあるからわかりやすいなと思いました。ぼくは、観光が、いろんな人がいろんな所へ行って国の文化、食べ物、歴史、自然を体験しているからとても楽しいんだなと思いました。(4年男子)」

「私が一番心にのこったことはカードを使って勉強をすることです。私は“美しいビーチをながめて風景のスケッチをする”と書きました。私は、自分の住んでいる沖縄県が1位なのでとてもびっくりしました。沖縄県は、自然や文化などたくさんあることがわかりました。寺本先生が作ったカードは国語とかでも使いたいです。教えてくださいありがとうございました。(4年女子)」

この二つの作文は、筆者が授業者となり、沖縄県の児童に対して、手製のカード教材を活用しながら観光授業を試みた直後に綴られたものである。自県のよさを見直し、観光客が楽しめる滞在プログラム(短い文で観光行動を示す)を26枚の絵カードを参考に考え合った楽しさに満ちている。この試みは、沖縄県内の公立小学校を舞台に、昨年10月から11月にかけて4年生1クラス当た

り計8時間かけて展開した提案授業である。本稿では、細切れで平板になりがちな単元「わたしたちの県のように」を、観光のアンクルから大きく組み替えることで問題解決学習として魅力的に改善できた点を報告したい。

我が国は人口減少社会に突入し、地方はとりわけ高齢化と過疎化が著しい。経済は活力を失いつつある。しかし、問題解決の手段がないわけではない。広義の「観光」が有効需要を喚起する。大都市と人口減少県同士が交流し、定住促進も果たさなくてはならない。専門的な用語でいえば「着地型観光」をさらに活性化させ、内外からの観光客を招く必要がある。この動きを地方で自律的に推進できる人材は、いま目の前で学んでいる子どもたちである。

しかし、子どもたちは自県のよさと弱点をどれだけ知っているのであろうか。見ていて観(視)えていない資源があるのではないか。4年生で「わたしたちの県」について学習していく際に、単純に自県の地理的特色について地形や交通、産業等の項目別に学んだり、自然や伝統を生かした地域の紹介にとどまっていたら、地域人材は育ちにくい。この単元を観光単元として組み替えていき、地域の観光資源化を志向した楽しい学習へと転換を図らなくては、地域人材育成は果たせないのではないか。

## 1 観光立県、沖縄県の小学校社会科

ご協力頂いた学級は、沖縄県中城村立中城南小学校(大城盛文校長、児童数463人)第4学年の2クラスである。沖縄県では4年生児童全員にカラー印刷の観光副読本『めんそーれー観光学習教

材』(47ページ)が配布されており、全国でも屈指の観光教育先進県である。この副読本は、沖縄県に多くの観光客がやってきている事実を学び、観光産業に従事する人々の仕事や接遇に関しても学習できる優れた内容である。しかし、現実には教科書の展開とこの観光副読本の内容とを上手く関連させることができず、学校によっては副読本を十分に活用できていない例もある。そうした課題を解消するためにも、教科書執筆者でもある筆者自ら現地に向かい、公開授業の形で観光授業のモデルをお見せすることが効果的ではないかと考えた。

第1次は、2時間連続で学習問題「どうして沖縄県が観光で人気のNo.1の県になれたのだろう。」を追究した。

### (1) 指導案

授業のねらい：沖縄県は観光で人気No.1であることを知り、その理由を考え合いながら、沖縄観光がどんな魅力に富んでいるか、観光客は沖縄に何を楽しみに来沖しているのかを考え、自分たちにも新しい滞在プログラムを立案できることを知ることで、観光業や観光の意味について理解を深める。

### 指導案 (1時間目)

	学習活動	指導上の留意点
導入	①地図帳を開いて47都道府県の中で観光人気No.1の都道府県はどこか予想する。 ・東京が1位と思う。 ・北海道ではないか ・ひょっとして沖縄県?	・予想した都道府県名を出した後、意見の根拠となる自分の考えを引き出す。 ・人気で総合1位である資料を貼る。
展開	②沖縄県が総合で1位の人気であることを知り、その理由を考える。 ・海や空がきれいだから? ・水族館や首里城に来ている ・結婚式で来ているのでは ・保養に来ている?	・『めんそーれー観光学習』の該当ページを開かせる。おおよその掲載ページを示してその中で探すように促す。 ・各視点ごとにグループから出てきた意見を教師が大まかに整理する。
まとめ	③観光客は滞在中、どんな目的で観光するかを考える。 ④6つの観光資源の視点をヒントに沖縄県が人気No.1である理由をグループで考える。 ⑤6つの視点のうち、どれが最も重要なのか自分の班の考えを紹介する。	・『観光学習教材』に掲載のグラフ(観光客の滞在中の活動)に着目させ、自分たちの予想と照らし合わせるよう促す。 ・観光資源を分類する6つの視点のうち、どの視点が最も沖縄県にとって重要かを絞り込ませる。

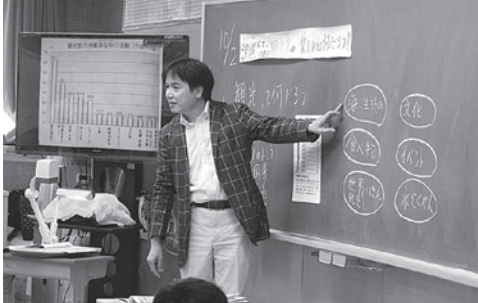
### 指導案 (2時間目)

	学習活動	指導上の留意点
導入	①地図帳に掲載されている沖縄本島の拡大図を使い、沖縄本島で県外から訪れた観光客が楽しむ新しい観光の滞在プログラム(短文)を作る。	・沖縄本島にある主な観光地名を列記する。 ・『観光学習教材』の該当ページを開かせる。おおよその掲載ページを示してその中で見つけるように促す。
展開	②観光地+動詞の組み合わせで楽しみ方を考え、ノートに各自3つ書き出す。 ③班で自分の考えを紹介し合う。	・隣の人と話し合って探してもよい。 ・最低、3案考えるように勧める。 ・友だちのよいアイデアには相づちをうったり感嘆の声をあげたりするように勧める。

まとめ

- ④班の世話役の子どもが、一押しの楽しみ方を一案選択する。
- ⑤班の代表者が黒板に書き出す。
- ⑥皆で考えたアイデアの感想を述べ合う。

- ・楽しく話し合いながら決めていく。
- ・班ごとの記入欄を板書で準備する。
- ・実現できそうなアイデアをほめる。



▲沖縄観光が人気No.1であるわけを考えた後で、「観光客の楽しみは何だろう。」を学習問題として扱う

## (2) ビギナーとリピーター

観光副読本の中に、沖縄を観光で訪れるビギナーとリピーターの推移を示した棒グラフが掲載されている。81.8%の観光客がリピーターであり、その目的は観光地巡りや沖縄料理を楽しむ、マリネジャー、ショッピングなどが上位4位を占めているものの、第5位に保養・休養が24%もあると示されている。「何万円もかけてわざわざ休みに沖縄にやってくるわけは何だろう？」というのが、子どもたちの素朴な疑問である。よほど沖縄に魅力がなければ、観光客は何度もやってくるわけがない。いったいどんな魅力が沖縄にはあるのだろうか、と素朴な問いが立ち上がってくるのである。

そこで、授業では、自然・食・歴史・文化・イベント・施設の6つの視点を示して、それぞれにどのような観光地や観光資源があるのかを確かめさせた。観光という目的的な行動が同時に観光資源を享受する行為となり、その結果、観光地が生まれてくる。観光という営みの本質に気付かせるきっかけとなった。

## 2 イラストカードの効果

2時間目の授業で、今回の授業のために開発し

た、観光客が楽しめる滞在プログラム（観光行動）を示した26枚の絵カードを提示した。この絵カードは、楽しい鳥のキャラクターが観光を楽しんでいる様子を描いたもので、動詞や形容動詞で表現されている。これに具体的な観光地を接合させて、例えば「写真を撮る」と「古民家でそばを食べる」という絵カードを手にして、観光地である首里城と合わせて、「首里城で写真を撮って、その後で近くの古民家で沖縄そばを食べる。」などといった観光客が楽しめる行動を言葉で表現させるのである。この作業を、絵カードを前にして6人1グループで行った。



▲絵カードの例

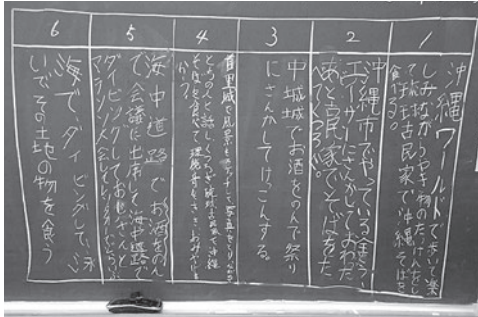


▲絵カードを前に考え合う子どもたち

グループ内で一番よかった案を一つに絞らせて黒板に書き出すように促した結果、写真のようなアイデアが出てきた。一例をあげれば、「沖縄ワールドで歩いて楽しみながら、焼き物のたいけんをして、琉球古民家で沖縄そばを食べる」という観光行動が考え出された。



こうした、観光客の立場に立って楽しみ方を考え合う機会は、ホスピタリティ教育の基本にもつながり、同時に、沖縄らしさをいかに演出し、観光客に楽しんでもらうかを考える企画能力の開発にもつながる。



▲4年生が考えた観光客に楽しんでもらうアイデア

授業はその後、世界遺産である中城城を取り上げ、実際に見学・調査させ写真に石垣の美しさや城の要所を撮影させた。さらに、観光客に城の価値を分かりやすく紹介するコラージュ作品の製作へと続いていった。

2クラスでのべ16時間の出前授業であったが、子どもたちは、ふるさとにある世界遺産が今まで600年もの間存続してきたことへの感謝と、これから自分たちが継承していきたいと考える責任感をもつようになった。



▲中城城を撮影する子ども

### 3 「しげん化」で学び合う社会科授業の必要性

観光資源となる地域のよさは、意外と見出しにくい。既に観光地として発展している場合は、卓越した価値のある場所や施設、文化的装置、自然景観などが古くから存在しているのでわかりや

すい。例えば、神社やレジャー施設、国立公園などである。しかし、これから個人旅行客が大半を占めてくる時代にあって、従来の観光資源だけに頼っているのは地方の活性化は期待できない。農林水産業で生産される資源も、見方を変えれば観光資源になり得る。観光農園や体験漁業などはその好例である。

筆者が「しげん化」と呼んでいる学びは、地域資源の発掘や再認識の作業であり、同時に批判的思考も働かせつつ問題解決学習が成立する展開をイメージしている。子どもたちから持続可能な地域の発展を考えていこうとする習慣を身に付けさせ、提案能力の育成につなげたい。地域の資源を見い出したり、見直したり、組み合わせたりする中で、子どもたちは、地域に自信と将来への希望を感じられるようになるだろう。若年女性の半減で地方の多くの自治体が消滅するとの推計に悲観するだけでなく、教育も地域の持続性に寄与する使命がある。

#### おわりに

初めて本格的な観光の授業を展開してみて、オーソドックスに県の地形や人口、交通、産業などを並列に扱う従来の指導法と比べて、格段に魅力的な授業が実現できたと感じている。子どもたち自身、観光を題材に学習することに積極性を見せ始めたからだ。自分の住む県の観光の魅力を初めて知った喜びに近い感覚を覚えたようである。今回の観光の授業開発は、かなりの手ごたえを感じた。

沖縄県は観光で人気No.1の県ではあるが、どの都道府県でも観光資源はある。今後、社会科でこそ観光学習が花を開くはずである。今、どうして観光の授業が小学生から必要かを、真剣に考える時代に差しかかっている。

# 小学社会デジタル教科書

指導用 + 学習者用デジタル本文データ

## 教えやすく、学びやすい授業を支援します



### 3つの特徴

#### 1 教科共通で、だれでも使いやすいシンプルなデザイン

電子黒板での利用を考慮し、どのような立ち位置でも使いやすいデザインを実現。



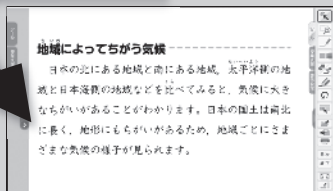
拡大・ペン機能など特によく使う機能にワンタッチでアクセス。



#### 2 見せたいところを自由に拡大して提示

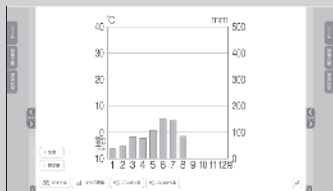
指導ポイントに合わせて、写真や図版などをワンクリックで拡大、授業の焦点化を図ることができます。

ダブルクリック拡大、範囲拡大など、指導シーンに合わせて使い分けが可能。



#### 3 豊富なデジタル教材で理解を深める

紙面には掲載されていない追加の写真や、教科特性に応じた動画、アニメーション、シミュレーションなど多様なコンテンツを収録。



#### 学習者用デジタル本文データとは



教科書を学習者用端末で利用することを想定し、EPUB3形式のフォーマットで作成したデータです。デジタルデータによって、紙の教科書では難しかった利用方法を実現します。

#### 主な特徴

- 表示の白黒反転
- ペンツールを用いたの書き込み
- ピンチ操作等による画面の拡大・縮小
- 文字の大きさ、行の間隔を調整して表示 (国語・社会)
- 文字の書体と、文字色・背景色を変えて表示 (国語・社会)

#### 動作環境

- 対応OS : Windows Vista, 7, 8, 8.1
- CPU/メモリ : Windows動作環境に準拠
- モニター : 解像度1366×768ドット以上
- HDD : 1学年最大4GB
- 必須ソフトウェア : Adobe Flash Player10.1以上 (最新版推奨), Adobe Reader8.0以上 (最新版推奨)

第3・4学年～第6学年 全3巻  
(学校内フリーライセンス※)

価格	全巻セット価格
各巻 72,000円	205,200円

(価格は税別)

※同一校内での使用に限り台数無制限でご利用いただけるライセンスです。

本広告に記載の内容、製品の仕様は予告なく変更する場合があります。

# 小学社会DVD

小学校社会指導用教材

各巻 本体 **15,000円**+税

- わたしたちの暮らしと国土 (5年) 日本の国土, 地形, 気候, 寒い地域, あたたかい地域 など。
- 食料生産を支える人々 (5年) 農業(米づくり, 野菜の生産) 畜産, 漁業 など。
- 工業生産を支える人々 (5年) 自動車工場, まち工場の技術力, 伝統的な工業 など。
- 暮らしを支える情報 (5年) 情報ネットワークを生かす(図書館, 医療, 防災, 福祉) など。
- 環境を守る人々 (5年) エコタウン, 四大公害, 新エネルギー, 地球温暖化 など。
- 古代~中世の世の中 (6年) 縄文, 弥生, 古墳, 飛鳥, 奈良, 平安, 鎌倉, 室町, 安土桃山。
- 近世~近代・現代の世の中 (6年) 江戸, 明治, 大正, 昭和。
- 政治・世界とのつながり (6年) 日本国憲法, 政治のしくみ, 世界とのつながり など。

発行: **NHKインタープライズ** 販売元:  **教育出版**



第13回

# 地球となかよし メッセージ

## 作品募集 (2015年度)

「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたことを、  
写真 (またはイラスト) にメッセージをつけて表現してください。

応募者全員に  
参加賞が  
もらえるよ!

応募資格	小学生・中学生(数名のグループ単位での応募も可)
応募期間	2015年7月1日～9月30日 詳細は「優秀作品展示室」とあわせてホームページをご覧ください。
作品 テーマ	①身のまわりの自然が壊されている状況を見て感じたことや、自然環境 や生き物を守るための取り組み ②さまざまな人との出会いを通して、友好の輪を広げた体験、異文化交 流、国際理解に関すること ③その他、「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたこと

◎主催/教育出版 ◎協賛/日本環境教育学会  
◎後援/環境省、日本環境協会、全国小中学校環境教育研究会、毎日新聞社、毎日小学生新聞  
\*協賛・後援団体は昨年実績で、継続申請中です。

応募の決まりなど詳しくはホームページを見てね

<http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/>

**教育出版**

「地球となかよし」事務局 TEL 03-3238-6862 FAX 03-3238-6887  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10

前回  
入選作品



川が...

近所の川はきれいですか? それともきたないですか? ぼくは、京都へ帰省した時に、七谷川という川へ行きました。そこは、水がとてもきれいでうめいでした。サワガニやヤゴ、カワヨシノボリなど、きれいな川にしかない生き物がいました。最近、トンボが少なくなってきたと聞いたことがあります。川が汚れて、ヤゴが育たないみたいです。ヤゴやカワヨシノボリ、サワガニが、住みやすいこのようなきれいな川を守りつづけてほしいです。

小学社会通信 まなびと [2015年 春号] 2015年3月31日 発行

編集: 教育出版株式会社編集局

印刷: 大日本印刷株式会社

発行: 教育出版株式会社 代表者: 小林一光

発行所: 教育出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 電話 03-3238-6864 (お問い合わせ)

URL <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp>



なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

- 北海道支社 〒060-0003 札幌市中央区北三条西3-1-44 ヒューリック札幌ビル 6F  
TEL: 011-231-3445 FAX: 011-231-3509
- 函館営業所 〒040-0011 函館市本町6-7 函館第一生命ビルディング3F  
TEL: 0138-51-0886 FAX: 0138-31-0198
- 東北支社 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル 7F  
TEL: 022-227-0391 FAX: 022-227-0395
- 中部支社 〒460-0011 名古屋市中区大須4-10-40 カジウラテックスビル 5F  
TEL: 052-262-0821 FAX: 052-262-0825
- 関西支社 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-6-27 ヨシカワビル 7F  
TEL: 06-6261-9221 FAX: 06-6261-9401
- 中国支社 〒730-0051 広島市中区大手町3-7-2 あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル 5F  
TEL: 082-249-6033 FAX: 082-249-6040
- 四国支社 〒790-0004 松山市大街道3-6-1 岡崎産業ビル 5F  
TEL: 089-943-7193 FAX: 089-943-7134
- 九州支社 〒812-0007 福岡市博多区東比恵2-11-30 クレセント東福岡 E室  
TEL: 092-433-5100 FAX: 092-433-5140
- 沖縄営業所 〒901-0155 那覇市金城3-8-9 一粒ビル 3F  
TEL: 098-859-1411 FAX: 098-859-1411